

Toward New Models of Trauma Healing and Recovery

— Art, Business, and Academia in Dialogue

主催

INSTITUTE OF
TRAUMA
RECOVERY

協催

innoh Associates

同時通訳

スマホと有線イヤフォンをご持参ください
(Bluetoothは混信の恐れあり)



Denise Saint Arnault

ミシガン大学 教授



Kyle Linton

Our Wave
創設者/代表理事



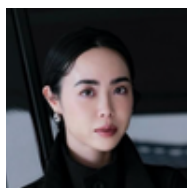
Laura Sinko

テンプル大学 助教
Our Wave 研究/支援責任者



Kleio Koutra

ヘレニック地中海大学 准教授



鶴田 さくら

電子音楽家



キタ 幸子

一般社団法人
トラウマ・リカバリー研究所
共同代表理事

多分野融合の基盤づくり アート×ビジネス×学術

2025.11.18 (火)

13:00 -17:00 【開場】 12:30

トラウマリカバリー

インターナショナルカンファレンス

【会場】

サントリーホール ブルーローズ



写真提供：
サントリーホール

【定員】 先着 **300** 名 【参加費】 **5,800** 円(税込)

【申込み】 <https://trrecovery.peatix.com/>

お申込みは
こちらから



主催・問い合わせ

一般社団法人トラウマ・リカバリー 研究所

✉ contact@t-recovery.or.jp

協催

イノー・アソシエイツ株式会社



Denise Saint Arnault

医学人類学博士（ウェイン州立大学）。ミシガン大学教授、世界13か国のトラウマリカバリー国際共同研究チーム（Multicultural Study of Trauma Recovery consortium：以下、MiStory）創設者、代表理事、トラウマ・リカバリー研究所研究アドバイザー。絵や図を用いてトラウマ当事者のナラティブな語りを促すインタビュー手法（Clinical Ethnographic Narrative Interview：CENI）を開発し、その手法を用いて、日本、米国、ギリシャ、トルコなどの13か国でトラウマリカバリーのプロセス、文化との関連、援助希求行動に関する研究を実施している。



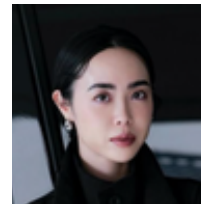
Kleio Koutra

社会福祉学博士（クレタ大学）。ヘレニック地中海大学の准教授、応用社会調査・ソーシャルワーク研究所の所長。MiStoryの理事であり、トラウマ・リカバリー研究所のメンバー。近年、アメリカのラトガーズ大学・グローバルヘルス研究所の准会員に就任。彼女の研究は、ジェンダーに基づく暴力からのトラウマリカバリーの文化的・社会的文脈的理解である。数多くの国際共同研究を主導・参加しており、被害者の声を社会に届け、誰も取り残さないトラウマリカバリーのアプローチを推進することに情熱を注いでいる。



Kyle Linton

OurWave（米国非営利団体）の創設者・代表理事。トラウマ・リカバリー研究所メンバー。複数のソフトウェアやライフスタイル関連のビジネスを立ち上げ、運営し、売却してきた、経験豊かなビジネスリーダーである。2018年、親しい友人が性被害を受けたことをきっかけに、トラウマを抱える人たちが安心して集まれるオンラインのコミュニティを作りたいと思い、Our Waveを設立、今に至る。Our Waveはこれまで世界69か国以上で、30万人を超えるトラウマサバイバー（暴力被害を経験した方々）が利用している。



鶴田 さくら

電子音楽家。バークリー音楽大学にてMusic Therapy科を首席で卒業後、ホスピス・緩和ケア病棟で音楽療法士として活動中に、テクノロジーを用いた音楽表現に魅了され、同校Electronic Production & Engineering科に進学し、再び首席で卒業。帰国後は、電子音楽を軸に作曲・演奏・教育など幅広く活動し、ハイブランドとのコラボレーションや国内外の大学での特別講義も行う。音楽業界におけるジェンダーギャップ改善への取り組みが評価され、Forbes JAPAN「100通りの『世界を救う希望』」に選出、表紙も飾った。



Laura Sinko

看護学博士（ミシガン大学）。テンプル大学フィラデルフィア校助教、Our Wave理事、MiStory理事、トラウマ・リカバリー研究所メンバー。性暴力対応看護師（Sexual Assault Nurse Examiner）であり、ジェンダーに基づく暴力を中心とした健康の公平性と社会変革に関する研究に従事。トラウマサバイバーのいやしのプロセスと行動を理解することを目的とした写真を使ったインタビュー手法「Photo-experiencing and reflective listening（PEARL）」を開発し、アメリカや日本のトラウマサバイバーを対象に実施している。



キタ 幸子

保健学博士（東京大学）。トラウマ・リカバリー研究所創設者・共同代表理事、MiStory理事。専門分野はパートナーからの暴力や子ども虐待などの家族の暴力である。暴力がない社会、全ての当事者が心身・社会的に回復（トラウマリカバリー）できる社会を目指して、約20年にわたり、臨床・支援現場での支援、施策、システムの創生に資する研究・活動に従事、2025年4月に一般社団法人トラウマ・リカバリー研究所を設立、現在に至る。

第1部

学ぶ、考える

2時間

基調講演	Denise Saint Arnault 「対人関係からのトラウマとそのリカバリーを理解する：今こそアクションを」
パネルトーク	Denise Saint Arnault 他 「トラウマの時代を生き抜く：世界のサバイバーシップとレジリエンス」
話題提供	Kyle Linton × キタ 幸子 × 池 浩太郎 「『アート×ビジネス×学術』の新たなビジネス・支援モデル」

第2部

感じる

2時間

映画 視聴・解説	Laura Sinko 「Finding The Strength To Heal」 映画製作の背景や動機、バックストーリー等の紹介
クロストーク	Laura Sinko × キタ 幸子 日本と米国のサバイバーが撮った写真やアートの紹介
クロストーク	Denise Saint Arnault × Laura Sinko × Kleio Koutra × キタ 幸子 世界のトラウマリカバリーの声とワークの紹介
演奏	鶴田さくら トラウマリカバリーをテーマにした音楽演奏